

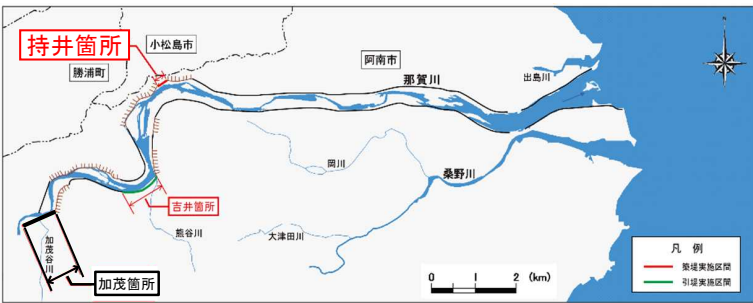
那賀川水系流域治水プロジェクト

～安全・安心で光り輝く那賀川をつむぐ流域治水対策～

令和6年度の取組
令和7年度の取組予定
四国地方整備局

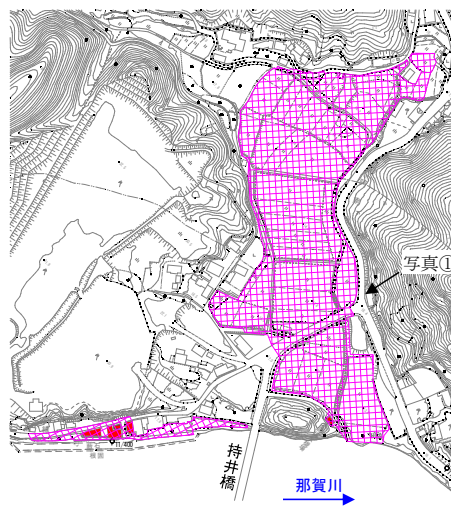
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策(持井箇所堤防整備)

○戦後最大流量を記録した平成26年8月台風第11号による深刻な浸水被害を踏まえ、持井箇所で設計を実施。



持井箇所

凡 例	
	浸水区域
	居宅・倉庫・車庫等



平成26年8月台風第11号浸水範囲



那賀川水系流域治水プロジェクト

～安全・安心で光り輝く那賀川をつむぐ流域治水対策～

令和6年度の取組
令和7年度の取組予定
四国地方整備局

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策(地震・津波・高潮対策)

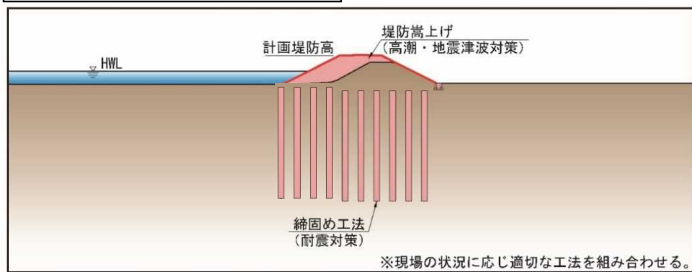
○東日本大震災を踏まえ大規模地震・津波への対策を見直し、那賀川・桑野川河口部の堤防の嵩上げ、地盤の液状化による沈下を抑制する対策、河川管理施設の耐震化を実施。

原ヶ崎・黒津地箇所

令和6年度は原ヶ崎箇所の樋門本体、築堤護岸工事、液状化対策工事及び黒津地箇所の築堤護岸工事を実施。
令和7年度は原ヶ崎箇所の樋門ゲート・上屋工事及び築堤護岸工事を実施。



地震・津波・高潮対策イメージ図



原ヶ崎箇所



黒津地箇所



氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策(侵食対策)

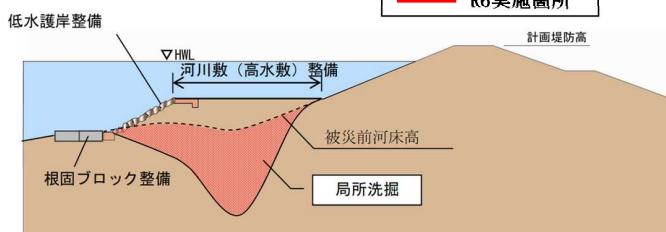
○河道の二極化及び深掘れによる堤防の侵食被害を防止するために、河道掘削及び高水敷整備を実施し、堤防の安全度を高める対策を推進。

岩脇・古庄・下大野箇所

令和6年度は岩脇箇所・古庄箇所・下大野箇所の高水敷整備を実施。
 令和7年度は下大野箇所の高水敷整備を実施予定。



局所洗掘対策イメージ図



古庄箇所



施工前 (R6年7月撮影)



施工中 (R7年1月撮影)

岩脇箇所



施工前 (R6年5月撮影)



施工中 (R7年1月撮影)

那賀川水系流域治水プロジェクト

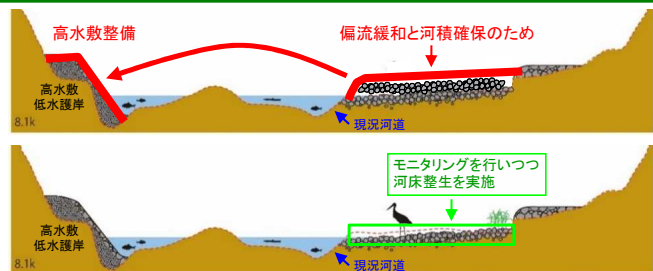
～安全・安心で光り輝く那賀川をつむぐ流域治水対策～

●グリーンインフラの取組

自然環境の保全・復元などの自然再生(瀬環境・浅瀬の保全・再生)

○瀬環境を保全・再生するため、緩傾斜をつけた砂州の切下げによって、アユの産卵場やナベヅルがねぐらとして利用できる浅瀬の整備を実施した。

○令和7年度はモニタリングを継続しつつ、河床低下緩和のための床止工を設置し、アユの産卵場の保全・再生を行う予定である。



緑字: 自然再生事業
 赤字: 治水事業



2024. 11. 20



2021. 12. 14

施工前



2023. 1

施工後



2024. 2

那賀川水系流域治水プロジェクト

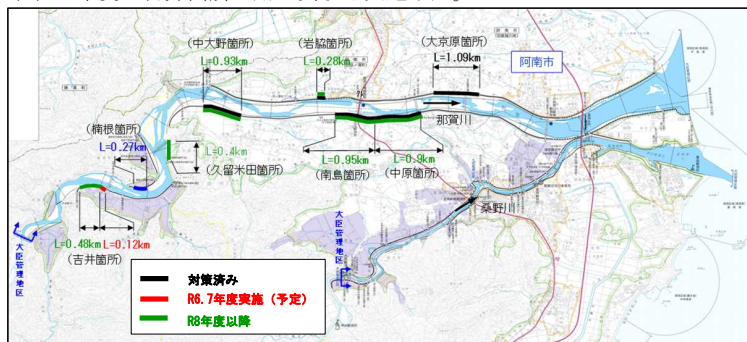
～安全・安心で光り輝く那賀川をつむぐ流域治水対策～

令和6年度の取組
令和7年度の取組予定
四国地方整備局

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策(漏水対策)

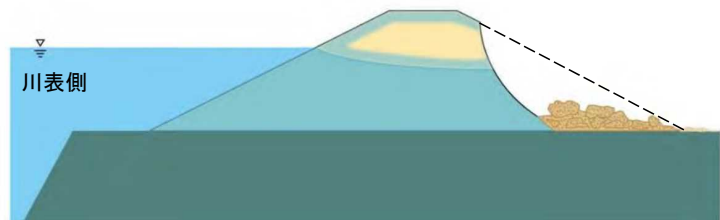
○洪水を安全に流下させるため、漏水対策として堤内地盤への盛土等を実施。

令和6年度は吉井箇所の用地調査等を実施。
令和7年度は吉井箇所の用地買収を実施予定。

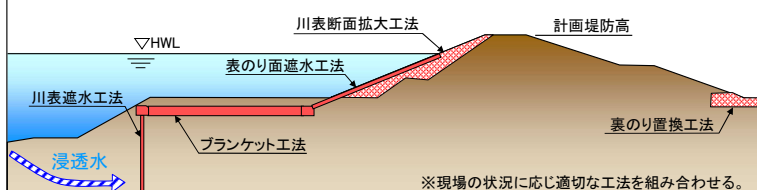


堤体漏水発生イメージ図

堤体を浸透した水によって堤体が崩れる



漏水対策イメージ図



川表断面拡大工法：堤防断面を浸水しにくい材料により大きくして、河川水を浸透しにくくする。
表のり面遮水工法：川側堤防斜面（表のり面）を護岸等により被覆することで、河川水を浸透しにくくする。
また、現場条件により覆土を行う。
プランケット工法：河川敷（高水敷）を透水しにくい材料（主として土質材料）で被覆することにより、河川水を浸透しにくくする。
川表遮水工法：川側堤防斜面（川表のり尻）等に止水矢板等により遮水壁を設置することにより、河川水が基礎地盤へ浸透しにくくする。
裏のり面置換工法：堤体の居住地側斜面（川裏のり尻）にせん断強度の大きい材料で置き換え、堤体の安定性を増加させる。

那賀川水系流域治水プロジェクト

～安全・安心で光り輝く那賀川をつむぐ流域治水対策～

令和6年度の取組
令和7年度の取組予定
四国地方整備局

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策(長安ロダム堆砂対策)

○長安ロダム上流域は急峻な地形、脆弱な地質を有し、日本有数の多雨地帯であることもあいまって、流域の土砂生産が顕著である。そのため、多量の土砂流入により有効貯水容量が減少。

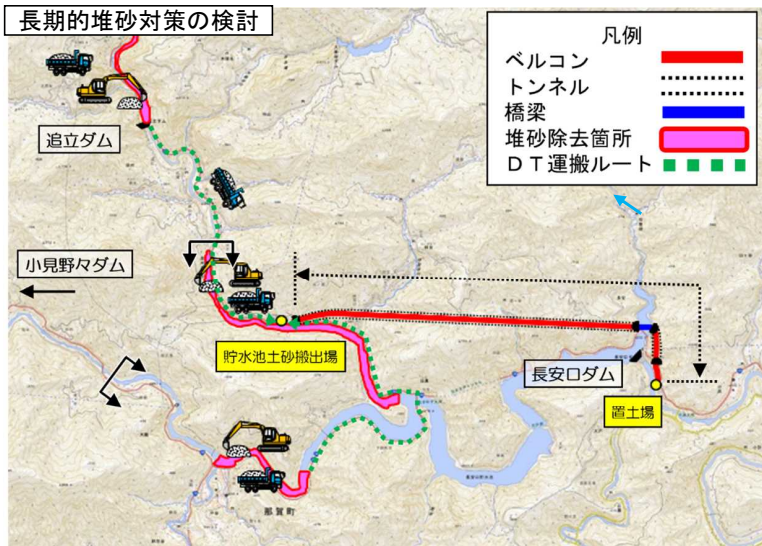
○長安ロダムの貯水池機能を保全するためのダム上流域堆砂除去工事、効率的な堆砂除去を行うための貯水池への進入路工事を行うとともに、長期的堆砂対策の設計を実施。

堆砂除去工事



長安ロダム上流(追立ダム上流・坂州木頭川・那賀川本川)で平成19年から約223万㎡の堆砂除去を実施。

長期的堆砂対策の検討



R6年度は、堆砂対策施設設計の実施及び総合土砂管理の検討を実施。
R7年度は、堆砂対策施設設計の実施及び総合土砂管理の検討を予定。

那賀川水系流域治水プロジェクト

～安全・安心で光り輝く那賀川をつむぐ流域治水対策～

令和6年度の取組
令和7年度の取組予定
四国地方整備局

●グリーンインフラの取組

自然環境の保全・復元などの自然再生(置土)

- ダム貯水池容量の維持とダム下流の河川環境改善（粗粒化の解消など）を目指して、長安ロダム上流に堆積した土砂を掘削し、ダム下流への置土（土砂還元）を実施し、令和7年度も同様に実施する予定。
- 平成19年から令和6年度までに約223万m³（令和6年度のみで約9.0万m³の予定）の土砂を除去し、約186万m³の土砂を還元。
- 土砂還元により、淵であった箇所には瀬や砂礫河原が出現し、変化に富んだ河川環境が復元。
- 川口ダム上流河道では、土砂還元により供給された礫が主体の河床材料で構成される箇所において、新たにアユの産卵場を確認。



那賀川水系流域治水プロジェクト

～安全・安心で光り輝く那賀川をつむぐ流域治水対策～

令和6年度の取組
令和7年度の取組予定
四国地方整備局

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策(小見野々ダム再生)

- 洪水時に下流河川の水位を低減し、流域の洪水被害を軽減する対策として、既設小見野々ダムの有効活用方策の検討、関連調査等を令和6年度に実施。
- 小見野々ダム再生方法の検討及びダム周辺地質調査、周辺環境調査を令和7年度に実施予定。



ダム再生方法の検討

ダム再生の例



ゲート改造案（イメージ） トンネル案（イメージ） ダム下流移設案（イメージ）

ダム周辺地質調査・環境調査

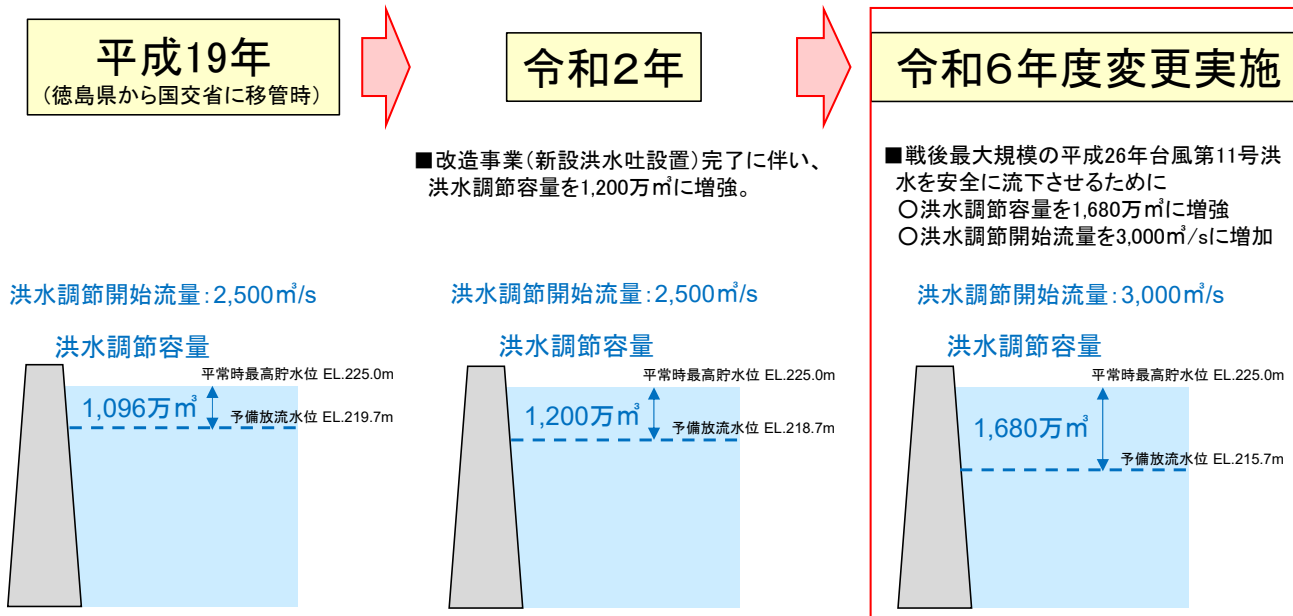


ボーリング調査

猛禽類調査

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策(長安口ダム操作規則変更)

- 長安口ダムの洪水調節容量は、平成19年の直轄移管時点では1,096万 m^3
- 令和2年の新設洪水吐設置完了に伴い、1,200万 m^3 に増強。
- 平成26年台風第11号洪水において甚大な被害が生じた『和食地区』の浸水対策が完成 (R3.5)、『加茂地区』の浸水対策が完成 (R4.5)
- 令和5年度に貯水池斜面の観測体制が調い、本格的なダム管理に移行。
- 戦後最大規模の平成26年台風第11号洪水を安全に流下させることを目的に、操作規則変更を実施。



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策(放流警報設備の強化)

- 長安口ダムの放流警報設備の表示内容を1種類(放流中)から3種類(放流中、警戒、非常)に増やし、ダムからの放流状況の危険度が分かるように一部改良済み。
(R4年度 8箇所設置、R5年度 3箇所設置、R6年度 0箇所、R7年度以降 10箇所設置予定)

①表示の内容(案)

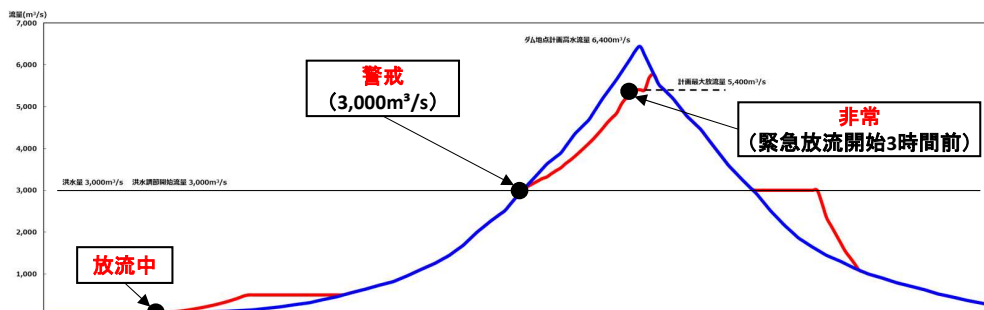
全21カ所中11カ所設置



		表示内容(案)	
現状	改良後	表示の状況	備考
放流中	放流中	ゲート放流中	ゲート放流開始～3,000 m^3/s
	警戒	放流量3,000 m^3/s 到達	洪水調節開始
	非常	緊急放流開始3時間前	

②表示のタイミング(案)

— 流入量 — 放流量



那賀川水系流域治水プロジェクト

～安全・安心で光り輝く那賀川をつむぐ流域治水対策～

令和6年度の実施
四国地方整備局

●グリーンインフラの取組

那賀川かわまちづくり

- 水辺空間の「観光・交流」「にぎわい」「憩いの場」を創出し、那賀川中流域の水辺空間利用促進、上下流の交流促進、地域の活性化を目的とする。
- 長安口ダム下流の左右岸に設置している、ダムの景色や放流を見学することが可能な展望所について、拡幅やダムカード枠を設置。
- ダム直下からダム本体・ゲートのライトアップ設備を整備。



右岸展望所拡幅



モニュメント



ダムカード枠の設置



ダムライトアップ

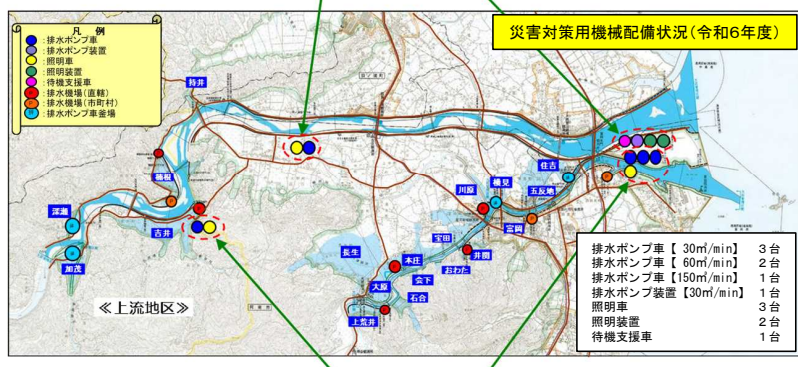
那賀川水系流域治水プロジェクト

～安全・安心で光り輝く那賀川をつむぐ流域治水対策～

令和6年度の実施
令和7年度の実施予定
四国地方整備局

被害対象を減少させるための対策(災害対策用機械配備状況)

- 那賀川河川事務所では、台風や豪雨等により発生した浸水を速やかに排水し、被害軽減を図る排水ポンプ車、夜間に災害現場の復旧作業を補助する照明車などを保管し、定期的な車両・機器の点検整備や操作訓練などを実施。
- 令和6年度には、豪雨時の排水作業を迅速かつ確実に実施できるよう、排水ポンプ車等の操作訓練を実施。令和7年度も同様に実施予定。
- 内水等により浸水の恐れがある場合など、関係機関の要請により配備が可能。



令和6年度 排水ポンプ車操作訓練



桑野川(R6.6.13)
那賀川河川事務所

令和6年8月台風10号 配備状況



那賀川・派川那賀川(R6.8.28～31)
那賀川河川事務所

那賀川水系流域治水プロジェクト

～安全・安心で光り輝く那賀川をつむぐ流域治水対策～

令和6年度の取組
令和7年度の取組予定
四国地方整備局
徳島県・阿南市

被害対象を減少させるための対策(流域住民に向けた勉強会の実施)

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策(流域住民に向けた勉強会の実施)

○第6回那賀川水系流域治水協議会で決定した、「関係住民等の流域治水への理解を深める取組」として、令和4年7月から住民(防災士・地域自主防災会・企業・団体等)を対象とした流域治水に関する勉強会を実施。令和7年2月時点の累計で全50回開催、約1700名の参加人数となっており、令和7年度も継続して実施する予定。

勉強会の主な内容

1. 那賀川流域の水災害に係る特性
2. 治水の経緯と水害リスク
3. これからの水災害対策 ～流域治水～
4. 流域治水の自分事化
5. もし堤防が決壊すれば?【浸水ナビ】

1(2)流域の水災害に係る特性

台風の通り道
日本有数の多雨地帯
降水量1317mm/日は日本記録
脆弱な地質

3. 下流域の水害リスク【浸水リスク】

古下地点(那賀川橋下流左岸)

1(7)「流域治水」の施策のイメージ

(7)自分事化に向けた取組

1. 防災情報を集める
2. 自分事として捉える
3. 行動する

勉強会開催状況

開催日	対象機関	参加者数
7月21日	那賀川工業用水利水者協議会	約30名
7月29日	阿南商工会議所/水環境研究会	約50名
10月12日	阿南商工会議所/女性会	約10名
10月14日	阿南工業団地企業等連絡会	約30名
11月2日	たくしま事前復興まちづくりファンリテータ養成講座	約50名
12月3日	那賀川アフターフェラム総会	約20名
2月8日	阿南市防災士の会/役員会	約10名
2月23日	大野町防災連合会	約50名
3月3日	日蓮化学工業(株)	約80名
3月6日	王子製紙(株)	約20名
3月12日	那賀川町	約120名
3月27日	阿南市農業委員会	約20名
4月8日	阿南市防災士の会/総会	約20名
4月18日	中野島自主防災組織連絡協議会	約20名
6月25日	那賀川町労働自主防災会	約20名
6月26日	阿南商工会議所	約30名
7月13日	那賀川工業用水利水者協議会	約30名
9月1日	加茂谷中学校	約50名
9月3日	御堂町・蛭子町	約30名
10月1日	阿南市消防団	約25名
10月6日	阿南工業高等専門学校	約80名
10月29日	富岡地区	約25名
11月3日	長生地区	約20名

勉強会の様子



那賀川水系流域治水プロジェクト【参考資料】

～安全・安心で光り輝く那賀川をつむぐ流域治水対策～

令和6年度の取組
徳島県 県土整備部

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

○事前防災対策を計画的かつ着実に推進するため、那賀川・宮ヶ谷川の河川改修や土砂・流木を流出抑制する砂防施設などのハード整備を推進

河川整備(県管理区間)

平成26年8月の台風第11号に伴う豪雨により浸水被害が発生した那賀川「出原地区」ほか3箇所、宮ヶ谷川の河川改修を推進

広域河川改修事業 那賀川【出原地区】
主要工種: 護岸など R6: 橋梁架替 R7: 橋梁架替

R6: 橋梁架替
下部工
河道断面の確保のための橋梁架替

広域河川改修事業 那賀川【阿井地区】
主要工種: 築堤など R6: 樋門工事 R7: 樋門工事・用地取得

堤防整備区間

広域河川改修事業 那賀川【和食地区】
主要工種: 橋梁など R6: 橋梁架替 R7: 橋梁架替

広域河川改修事業 那賀川【十八女地区】
主要工種: 築堤など R6: 擁壁工・用地取得 R7: 擁壁工・用地取得

十八女地区: 堤防整備
堤防整備区間

砂防施設の整備

土砂・流木等の流出を抑制する砂防堰堤を建設中

通常砂防事業 松ノ木谷
主要工種: 砂防堰堤工など R6: 本堤工 R7: 本堤工

通常砂防事業 ミサゴ谷
主要工種: 砂防堰堤工など R6: 用地交渉 R7: 用地交渉

総合流域防災事業 宮ヶ谷川
主要工種: 宅地嵩上げ、護岸など R6: 護岸整備・宅地嵩上 R7: 護岸整備

宅地嵩上げと連携した河川改修

R6: 本堤工 R6: 護岸整備 R6: ブロック据付

※位置図は那賀川水系河川整備計画から抜粋

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策(防災情報の充実化、水害リスク空白域の解消等)

○「逃げ遅れゼロ」を目指し、避難の実行性向上に繋げる「防災情報の充実化」や「災害の自分事化に向けた取組」など、流域・氾濫域での被害軽減に向けた取組を推進

防災情報の充実化

防災情報を
プッシュ型で配信

伝わる情報へ



(災害時)
●●川の●●水位観測所で、水防団
特報水位1.30mを超過しました
(現在の水位は、1.3m)
【河川カメラ ●●川 ●●市 ●●
●●付近】
<https://www.youtube.com/watch?v=jyVZg4E4L4>
【河川カメラマップ】
県内の河川監視カメラ映像を確認する
場合はこちら
https://maps.pref.tokushima.lg.jp/live_camera/
【水位情報】
https://www.kasen.pref.tokushima.lg.jp/sp/status/river_graph_1_20.html



徳島県公式LINE

選択したダムごとに
放流情報等の
受信が可能に



県公式LINEの活用

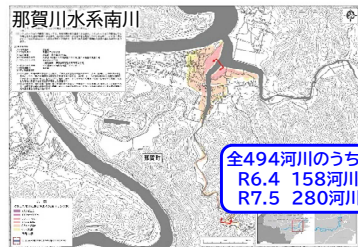
住民目線に立った情報発信

Youtubeに加えて新たにCATVによる
リアルタイム配信(県内22河川28箇所)



河川監視カメラの映像配信

徳島県河川整備課
@riverinfo



水害リスク情報空白域の解消

中小河川の洪水浸水想定区域図の作成

全494河川のうち
R6.4 158河川公表
R7.5 280河川公表予定

災害の自分事化に向けた取組

VR動画で外水・
内水氾濫の様子を観察

水害に備えるファミリー
タイムラインを作成



驚敷小学校



加茂谷中学校

国土交通省・徳島県
24市町村が参加

能登半島豪雨等を踏まえ、
「避難判断」に関する
「防災情報」を互いに共有し、
「被害の最小化」に向けた取組



R6.12.24
水災害に関する減災会議

流域治水パンフレットの作成



流域治水に関する住民の意識醸成

那賀川水系流域治水プロジェクト

～安全・安心で光り輝く那賀川をつむぐ流域治水対策～

●グリーンインフラの取組(大津田川の希少種生息環境の保全・再生)

○貴重な湿地と豊かな自然が広がる「大津田川」の環境保全・再生を図る河川改修と
希少種「オグラコウホネ」の移植



令和6年度移植対象範囲

オグラコウホネの移植状況

令和6年度の取組

- ・河道拡幅から豊かな自然環境を再生するため、鉄線籠型多段積護岸を実施
- ・工事影響範囲に自生する希少種「オグラコウホネ」を水域環境の保全のため移植
- ・今年度より、希少種「ウマスゲやフサスゲ、ミズタカモジ」の移植を実施

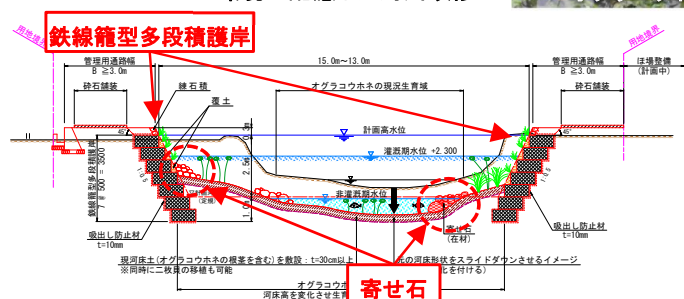
令和7年度の取組予定

- ・環境保全・再生を図る河川改修を推進
- ・希少種の移植効果や知見収集のためのモニタリング調査を実施

【オグラコウホネの概要】

- ・スイレン科に属し、ため池や 河川、水路などに生育する多年草の水草
- ・環境省レッドリスト 絶滅危惧II類
- ・徳島県版レッドリスト 絶滅危惧IB類に分類

環境に配慮した河川改修



オグラコウホネ

那賀川水系流域治水プロジェクト【参考資料】

～安全・安心で光り輝く那賀川をつむぐ流域治水対策～

令和6年度の取組
徳島県

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策(森林の整備・保全)

●グリーンインフラ 森林が持つ多面的機能の強化

気候変動に伴う大雨の激化・頻発化により山地災害が激甚化する中、水源涵養機能や土砂流出防止機能等、森林が持つ公益的・多面的機能の適切な発揮に向け森林整備（造林・林道事業）や治山事業を実施した。



造林事業	40ha	造林、間伐
林道事業	13路線	開設 1,327m、改良 543m
治山事業	10地区	治山ダム9基、山腹工0.03ha、本数調整伐22.7ha

※R5年度(補正)+R6年度



(再造林：木頭地区)

確実な森林更新を図る再造林



(林道整備：横石谷山線)

森林整備の基盤となる林内路網整備



(間伐：上那賀地区)

間伐により整備された森林



(治山ダム工：船谷地区)

森林の維持造成に必要な治山事業

下流域への

○ 雨水の流出抑制

○ 土砂・流木の流出抑制

那賀川水系流域治水プロジェクト【参考資料】

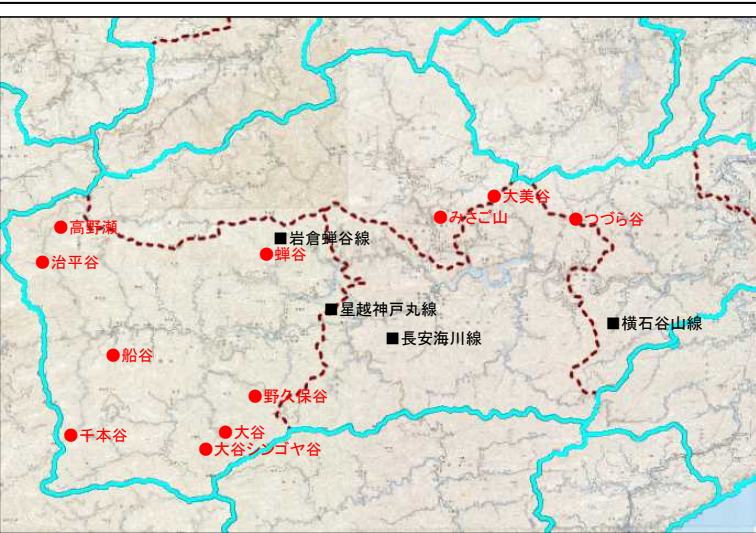
～安全・安心で光り輝く那賀川をつむぐ流域治水対策～

令和7年度の取組予定
徳島県

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策(森林の整備・保全)

●グリーンインフラ 森林が持つ多面的機能の強化

気候変動に伴う大雨の激化・頻発化により山地災害が激甚化する中、水源涵養機能や土砂流出防止機能等、森林が持つ公益的・多面的機能の適切な発揮に向け森林整備（造林・林道事業）や治山事業を実施予定。



造林事業	50ha(予定)	造林、間伐
林道事業	13路線(予定)	開設 1,683m、改良 379m
治山事業	11地区(予定)	治山ダム8基、山腹工0.04ha、本数調整伐14.8ha

森林整備による土壌浸透能の向上効果



手入れ不足の森林



間伐後の森林

治山事業の実施による流木・土砂の流出抑制効果



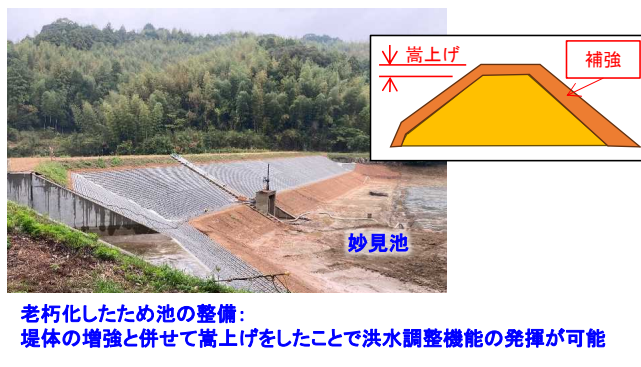
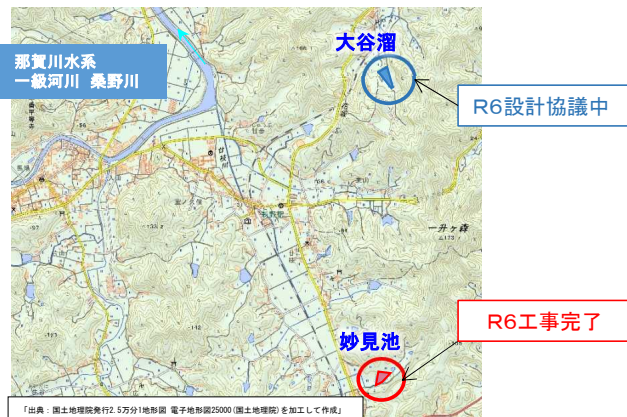
流木を補足した流木捕捉式治山ダム工



土砂流出を軽減した治山ダム工

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策(農業農村整備)

○農地が持つ雨水貯留機能の発揮や排水路整備による地域排水の改善に向けたほ場整備の実施。ため池の整備を行い、堤体を増強したことで洪水調整機能の発揮が可能。



那賀川水系流域治水プロジェクト

～安全・安心で光り輝く那賀川をつむぐ流域治水対策～

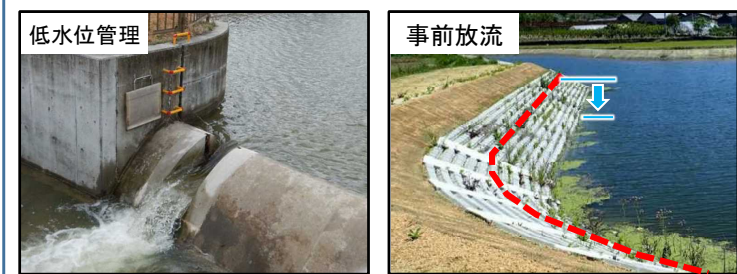
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策(農業農村整備)

○「田んぼダム」の取組の検討・導入促進

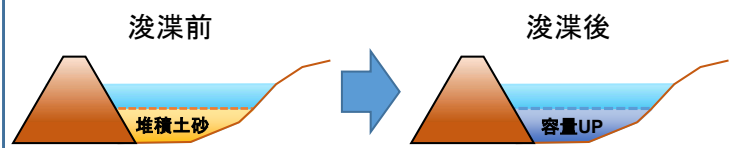
○ため池の活用の検討

・ほ場整備事業等の事業実施地区、新規採択地区及びこれまでにはほ場整備が完成した地区で取組検討・導入促進

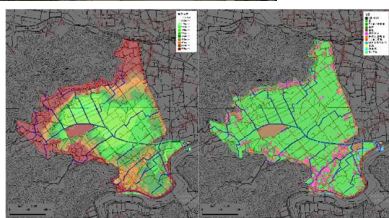
低水位管理・事前放流の推進



「農業用ため池しゅんせつ事業」の活用



・「徳島ため池管理支援センター」の活動により那賀川水系流域の市町及び、ため池管理者等へ、農業用ため池の事前放流等の取組を引き続き推進中
・「農業用ため池しゅんせつ事業」を活用し、農業用水及び洪水調節容量の確保に向けた取組を引き続き推進中



令和7年度以降検討地区:黒地地区(阿南市那賀川町)

那賀川水系流域治水プロジェクト

～安全・安心で光り輝く那賀川をつむぐ流域治水対策～

令和6年度の取組
令和7年度の取組予定
徳島県・阿南市

●グリーンインフラ 環境にも配慮した生産性向上・農地の維持管理と農村環境の保全活動(農業農村整備)

○ほ場整備の実施に合わせ希少植物の保護を実施。
農地保全対策の取組による水路の排水機能保全に加え、農村環境の保全活動を行った。

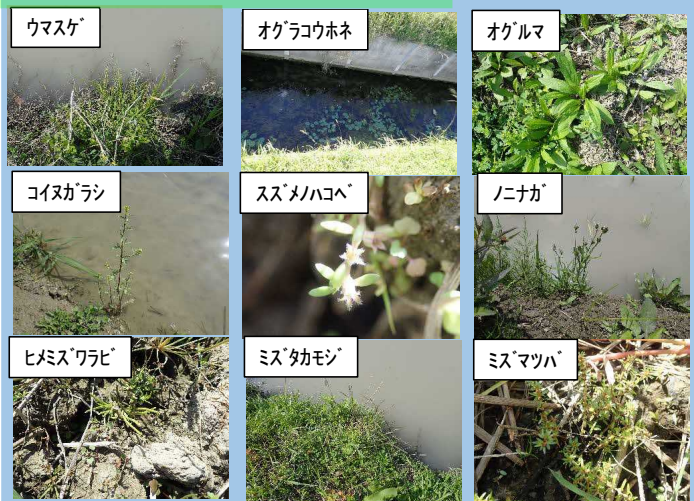
希少植物の保護



農業用排水路の維持管理



地区内の希少植物



地域とのつながり



多面的機能支払交付金により、農地を利用してコスモスを栽培、地域資源の質的向上を図り、地域住民や農業者主催によるウォーキングイベントを開催。

那賀川水系流域治水プロジェクト【参考資料】

～安全・安心で光り輝く那賀川をつむぐ流域治水対策～

阿南市

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策(樋門の耐震化・津波対策)

○辰巳工業団地の2樋門に阿南市役所から遠隔操作及び緊急時の自動閉鎖が可能なシステムを導入。
派川辰巳那賀川樋門の耐震対策完了。
引続き、辰巳那賀川樋門の耐震対策を進める。



- R5年度 : 詳細設計業務完了。
- R6年度 : 樋門新設工事に着手。
- R7年度以降: 引続き耐震対策を進める。
(樋門新設及び既設樋門撤去工事を実施)



被害対象を減少させるための対策(土地利用規制の検討)

- 市街化調整区域内の浸水ハザードエリア等における開発許可の厳格化（徳島県・阿南市）
 - ・市街化調整区域内の「災害リスクの高いエリア」における住宅等の開発許可基準の見直し、令和4年4月1日から開発許可の運用を厳格化
- 立地適正化計画における防災指針の作成については、令和7年度に着手予定
- 災害危険区域の指定は、現在指定に向けて検討中

那賀川水系流域治水プロジェクト【参考資料】

～安全・安心で光り輝く那賀川をつむぐ流域治水対策～

令和6年度の取組
阿南市

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策(施設の老朽化対策)

- 那賀川北岸地域湛水防除施設ではストックマネジメント事業4期に伴い、太田川排水機場の2号フラップ弁の更新と、野上排水機場の樋門に関する検討事業を行った。
- 農業用施設（樋門）の改修工事を実施中。



岡川左岸2号樋門

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策(農業農村整備)

- 県営ほ場整備事業で設置された「田んぼダム」を多面的機能支払交付金事業を利用し、維持管理を行っている。
(長生広域協定)



氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策対策(施設の老朽化対策)
(農業農村整備)

- 那賀川北岸地域湛水防除施設ではストックマネジメント事業4期に伴い、老朽化した農業用排水施設施設の整備・更新を行う
- 農業用施設(樋門)の改修工事を実施中。
- 多面的機能支払交付金事業を利用し、「田んぼダム」を実施。(長生広域)

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策(側溝清掃)

○側溝清掃事業による排水能力の確保

【令和6年度の取り組み】

・側溝清掃事業で道路側溝及び排水路の土砂撤去、除草を実施し、排水能力の確保に努めた。

【令和7年度の取り組み】

・令和6年度に引き続き、道路側溝及び排水路の排水能力を確保するため側溝等の清掃を実施する。



氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策(排水施設の整備:ポンプ場建設)

小松島飛行場周辺障害防止対策事業として平成26年度より和田島地区にポンプ場を建設し、排水施設を整備

完了した工事

- 令和1～3年度 土木工事(整地・基礎工事)
- 令和2～4年度 建築工事(建屋建設工事) 令和4年7月 建屋完成
- 令和4～6年度 ポンプ機械設備工事、沈砂池機械設備工事 令和6年5月完了

実施中の工事及び今後予定している工事

- 令和5～6年度 電気設備工事 (実施中)
- 令和6～7年度 流入渠・仮放流渠工事、ポンプ設備工事 (1号水中ポンプ) (実施中)
- 令和7～8年度 和田島排水機場(既存施設)解体工事
- 令和8～9年度 放流渠工事、場内整備工事



被害対象を減少させるための対策(立地適正化計画の策定)

○人口減少、少子・高齢化に対応し、経済活動や生活利便性が低下しないよう都市の拠点周辺に都市機能・人口の集積を図り、安全性の高い区域に居住を誘導することで、安全で暮らしやすいまちづくりを進めるための計画を策定します。

立地適正化計画制度は、拠点に都市機能を誘導し、その周辺に居住を誘導することによって、コンパクトなまちづくりを進めるもので、誘導区域内における交付金や金融上の支援措置、税制措置などのほか、開発時の届出制度などにより、効率的な都市構造の実現を目指す仕組みとなっています。

立地適正化計画制度のイメージ図



■居住・都市機能誘導区域・誘導施設の概要

立地適正化計画では、人口や都市機能（施設）の集積・誘導を図る「居住誘導区域」「都市機能誘導区域」を位置付けるとともに、どのような都市機能（施設）を誘導の対象とするか、「誘導施設」を設定し、コンパクトなまちづくりを進めていきます。

居住誘導区域

- ・人口減少の中にあっても人口密度を維持していくエリア
- ・生活サービスやコミュニティが持続的に確保されるよう、居住を誘導

都市機能誘導区域

- ・各種サービスの効率的な提供を図るエリア
- ・医療・福祉・商業等の都市機能を都市の拠点に誘導・集約

誘導施設

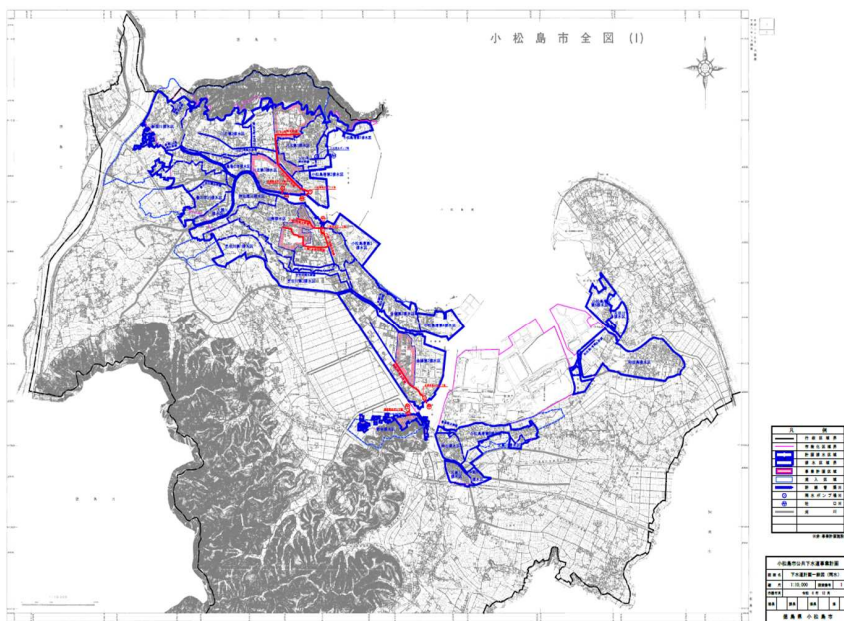
- ・都市機能誘導区域に立地を誘導すべきとされる都市機能増進施設（医療・福祉・商業施設等）
- ・現状、不足している機能（施設）や、今後も維持が求められる機能（施設）を設定

【スケジュール】

- 立地適正化計画（素案）の縦覧・パブリックコメント
1月10日～1月24日
- 立地適正化計画（素案）の説明会
1月20日
- 立地適正化計画（素案）の公聴会
（公述申出があった場合、開催）
1月30日
- 都市計画審議会
2月頃（予定）
- 立地適正化計画 策定完了
3月末頃（予定）

被害対象を減少させるための対策(雨水出水浸水想定区域図の作成)

○水防法第14条の2に規定される「想定最大規模降雨」により公共下水道等の排水施設の排水能力を上回り雨水を排除できなくなった場合、又は放流先の河川の水位上昇等に伴い公共下水道等の排水施設から河川等に雨水を排除できなくなった場合に浸水が想定される区域を公表する。



【令和6年度の実施項目】

- 雨水出水浸水想定区域図の作成着手
- 雨水出水浸水想定区域図の完成

【令和7年度の実施項目】

- 内水ハザードマップの作成着手
- 内水ハザードマップの完成
- 内水ハザードマップの公表

小松島市公共下水道全体計画区域
(雨水) 約709ha

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策(施設の保安全管理)

○多面的機能支払交付金事業による地域資源（農用地や水路等）の保安全管理

【令和6年度の取組】

地域共同で行う、多面的機能を支える活動や、地域資源(農地、水路、農道等)の資質向上を図る活動を支援した。

- ①地域資源の基礎的な保全活動の実施（水路の草刈りや泥上げなど）
- ②施設の軽微な補修（水路の軽微な補修など）
- ③施設の長寿命化のための活動（老朽化が進む水路等の補修・更新など）

[水路の草刈り]



[水路の泥上げ]



[水路の補修]



【令和7年度の予定】

河川や水路の氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策として、引き続き、多面的機能支払交付金事業により、地域共同で行う保全活動等を支援する。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策(防災対策支援)

○小松島市お散歩アプリ「こまポンウォーク」を活用した啓発及び周知を行う。

【令和6年度の実施項目】

□令和5年4月より運用を開始した、お散歩アプリ「こまポンウォーク」の活用

・本市総合防災訓練と連動した「ミッション」

啓発ブースへの立ち寄りを促すため、読み込むことでポイントが付与されるQRコードを設置。今年度は、「法律相談」「災害ボランティア」「ペット防災啓発」「災害用伝言ダイヤル体験」の4ブースにQRコードを設置し、全ブースへの訪問を達成した来場者には、備えの参考として、備蓄食料の配布を行った。



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策(防災訓練)

○令和6年度小松島市総合防災訓練の実施

日時：令和6年10月27日（日）9：00～11：30

会場：小松島市坂野小学校

主要内容：下記のとおり

□ペット同行避難訓練



発災後のペットに関する問題を踏まえ、ペット同行避難及び避難者カードの記入や係留方法の確認等を実施。また、飼い主を含めた市民への普及啓発としての、ペットに関する防災講話を実施した。

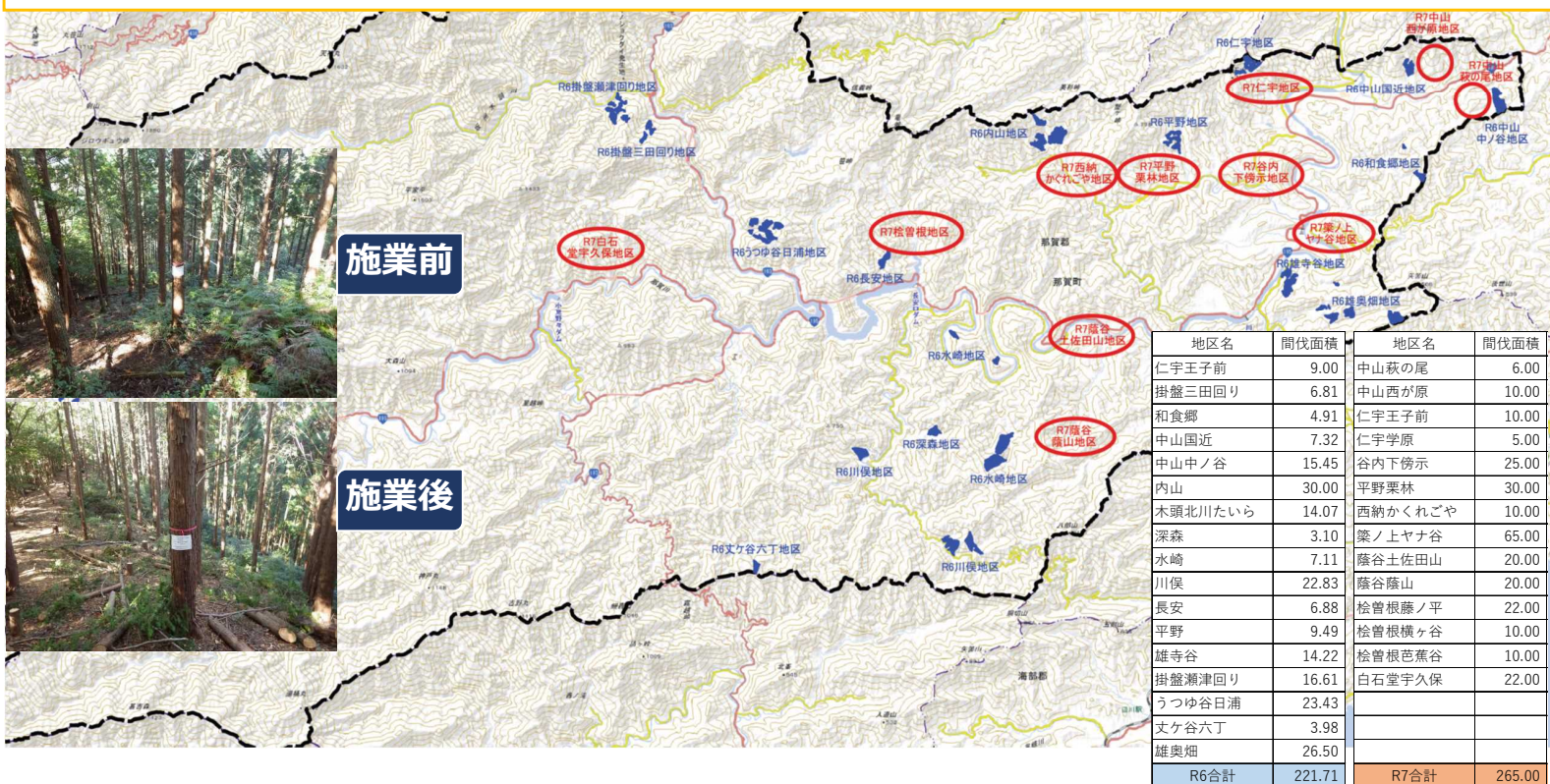
□避難所開設・運営訓練



地域住民が主体となって避難所を開設できるように、開設の手順や避難者の受け入れの要領等を確認後、訓練として避難者の受付と避難者の状況に応じた避難スペースへの誘導を行った。

氾濫を出来るだけ防ぐ・減らすための対策(那賀川流域の森林整備)

○那賀町の森林面積は65,958haと町面積の95%を占めており、育成が悪い森林や道路から遠い森林など、条件不利森林の手入れが遅れている森林が多いことから、このような森林を抽出し、切捨間伐を実施している。R6年度は221.71haを予定している。R7年度は265haを計画中。



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策（ケーブルテレビ放送による防災情報の配信）

- 大雨による災害警戒時に、那賀町ケーブルテレビの自主放送により、雨量データ、ダム放流量、ライブカメラ映像などの防災情報をわかりやすく配信する。
- 令和7年度以降も継続して配信を行う。

避難される場合は、お近くの役場までご連絡ください

那賀町 累計雨量観測情報

最終観測日時 2023/06/19 15:00

槍戸 累計 0 mm	和食 累計 0 mm
木頭 累計 0 mm	平野 累計 0 mm
府殿 累計 0 mm	吉野 累計 0 mm
坂州 累計 0 mm	川口 累計 0 mm
名古屋瀬 累計 0 mm	川俣 累計 0 mm
桜谷 累計 0 mm	長安 累計 0 mm

雨量データ（日早）→出原橋→田野橋→小川橋

土砂災害の危険性が高まっています。現在、相生・上那賀・木沢地

役場 本庁舎 62-1121	役場 相生支所 62-1111	役場 上那賀支所 66-0111	役場 木沢支所 65-2111	役場 木頭支所 68-2311
----------------	-----------------	------------------	-----------------	-----------------

那賀川水系流域治水プロジェクト

～安全・安心で光り輝く那賀川をつむぐ流域治水対策～

令和6年度の取組
 令和7年の取組予定
 那賀町

●グリーンインフラの取組 流出抑制に関する対策（防災調整池等の雨水貯留・浸透施設の整備、自然地の保全）

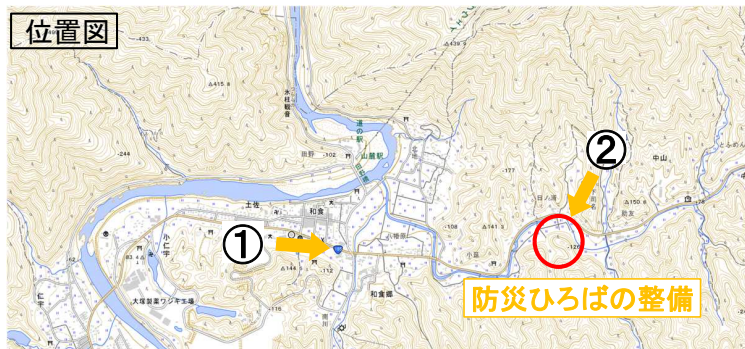
○公園貯留の他、全域で農地保全、農業用道路・水路の保全、治山事業、林道開設、林道改良、森林整備。

- 農地保全 全域
- 農道・水路保全 全域
- 治山事業（12地区）
- 林道開設事業（町営6線，県営4線）
- 林道改良事業 全域
- 森林環境林整備事業 全域

被害対象を減少させるための対策(ひろばの整備)

○徳島県の堤防盛土材として利用した那賀町鷲敷地区跡地を「防災ひろば」として整備し、必要に応じて多目的に利用。

位置図



② 防災ひろばの整備



①



R4年度 排水路工事、沈砂池工事
R5年度 用地交渉、進入路工事着手
R6年度 進入路工事実施中

那賀川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～安全・安心で光り輝く那賀川をつむぐ流域治水対策～

●グリーンインフラの取り組み

森林の整備保全

○ 那賀川水系上流域における森林整備事業



本数調整伐とは

保安林整備の一つとして、上層木となる立木の本数を調整することにより、植栽木及び稚樹等が健全に成長するために必要な成育空間と光環境を確保するために行うもの。

そのため、上層木の強固な樹幹の形成や強靱な根茎の発達が促進されるため、保安林機能を高め、山地斜面の崩壊防止に効果があるとされている。



那賀川水系流域治水プロジェクト【参考資料】

～安全・安心で光り輝く那賀川をつむぐ流域治水対策～

令和6年度の取組
令和7年度の取組予定
森林整備センター

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策(水源林造成事業による森林の整備・保全)

○水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の生長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。

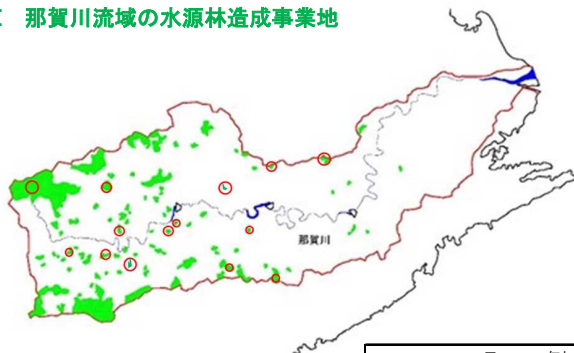
○水源林造成事業は、水源の涵養上重要な奥地水源地域の民有保安林のうち、土地所有者の自助努力等によって適正な森林整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業です。

水源林造成事業の流れ



○那賀川流域における水源林造成事業地は、約140カ所(森林面積 約4千ha)であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施していきます。令和6年度は見込約70haの森林整備を実施します。(令和7年度においては、約70haの森林整備を予定。)

I 那賀川流域の水源林造成事業地



令和6年度事業(見込)

植栽事業	3ha
保育事業	70ha

凡 例	
	水源林造成事業地
	R6事業実施箇所

II 徳島水源林整備事務所管内の水源林整備状況



那賀川水系流域治水プロジェクト【参考資料】

～安全・安心で光り輝く那賀川をつむぐ流域治水対策～

令和6年度の取組
徳島地方气象台

被害の軽減、早期復旧・復行のための対策(防災訓練・気象情報の新たな運用)

○令和6年度小松島市総合防災訓練への参加 令和6年10月27日に実施

被害の軽減を目的として、毎年開催されている小松島市総合防災訓練に参加し、気象測器及び防災気象情報を紹介するパネルを展示し、防災気象の取得方法や見方について紹介した。



○線状降水帯による大雨の可能性の半日程度前からの呼びかけを、府県単位とする

防災気象情報の伝え方の改善(線状降水帯による大雨について)

情報の改善のため観測や予測の強化の成果を順次反映し、令和4年6月には、線状降水帯による大雨の可能性の半日程度前からの呼びかけを
令和5年5月には、「顕著な大雨に関する気象情報」(線状降水帯の発生をお知らせする情報)をこれまでより最大30分程度前倒して発表する運用を開始。

令和6年出水期には、令和4年度から開始した線状降水帯による大雨の可能性の半日程度前からの呼びかけを、府県単位で実施。
(令和6年5月27日11時より運用開始)



被害の軽減、早期復旧・復行のための対策(防災訓練・気象防災ワークショップ)

○防災訓練での防災気象情報の普及啓発

被害の軽減を目的として、防災訓練に参加し、気象測器及び防災気象情報を紹介するパネルを展示するなどして、防災気象の取得方法や見方について紹介します。

○気象防災ワークショップ

気象台等から発表される防災気象情報に基づく自治体の防災対応を疑似体験していただくものです。災害が発生するおそれがある状況において、気象台等から発表される様々な情報を参照しながら、少人数によるグループワークを行います。

このワークショップを通じて、各種の防災気象情報を適切に理解し、有効に活用するとともに、体制の強化や避難情報の発令のタイミングなどに関する検討を行い、判断のポイントを学んでいただくことによって防災対応力の向上を目指しています。

